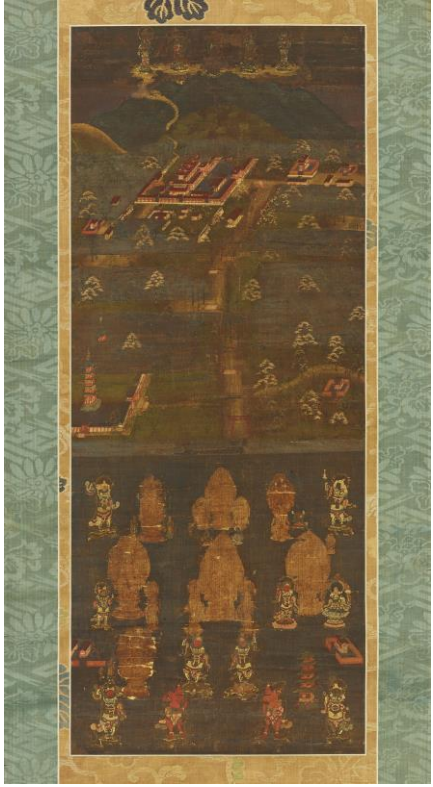



平成27年度購入文化財一覧

【奈良国立博物館】(計4件)

<p>1</p>	<p>○種別 ○名称 ○員数 ○時代 ○品質 ○寸法等 ○作品概要 ○購入金額</p>	<p><絵画> 絹本著色春日社寺曼荼羅 (けんぼんちゃくしよくかすがしゃじまんだら) 一幅 鎌倉時代 14世紀 絹本著色 掛幅装 (本紙)縦78.8cm 横31.9cm (表具)縦161.1cm 横46.5cm 春日社の景観と興福寺の主要堂塔安置の諸尊を一図に配した春日社寺曼荼羅の新出作品。鎌倉時代後期の春日宮曼荼羅の定型を踏襲しつつも、春日社景中には例を見ない小社を一の鳥居の先に描くなど希有な特徴をもつ。興福寺諸尊は台座や光背まで精緻に描かれており、現存しない像の詳細まで知られる点でも貴重な作品である。 32,400,000円</p>	
<p>2</p>	<p>○種別 ○名称 ○員数 ○時代 ○品質 ○寸法等 ○作品概要 ○購入金額</p>	<p><絵画> 紙本墨画帝釈天図像(しほんぼくがたいしゃくてんずぞう) 一幅 鎌倉時代 13世紀 紙本墨画 掛幅装 (本紙)縦92.1cm 横49.3cm 立像の帝釈天を描く白描図像。墨書により本品は醍醐寺三宝院に伝来した珍海(1091~1152)筆様の十二天図像の一つと分かる。また鎌倉時代の図像収集家として知られる玄証の集めた図像の一つとも判明する。本品は反町家旧蔵の帝釈天図像(重要文化財、東京国立博物館蔵)と祖本を同じくする作品とみられ、日本初現期の十二天図像の一部として密教絵画史上きわめて重要な作品に数えられる。 21,600,000円</p>	

<p>3</p>	<p>○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品 質 ○寸 法 等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><絵画> 紙本着色十卷抄（経法） （しほんちゃくしよくじっかんしょう [きょうほう]） 一卷 鎌倉時代 13世紀 紙本着色 卷子装 （本紙）縦 30.2 cm 長 815.5 cm （表紙）縦 30.2 cm 横 22.4 cm （軸付紙）縦 30.2 cm 長 16.5 cm</p> <p>「十卷抄」は平安時代末期に編纂された日本最古の図像集で、原本は伝わらず鎌倉時代の写本が伝存する。本品はその写本の一つであり、東寺観智院に伝来したもの。全10巻のうち巻第2は既に当館の蔵品となっており、他に帝塚山大学博物館や米ハーバード大学美術館の所蔵巻も知られている。本品の図像は堅実な作風をみせ、由緒の明らかな鎌倉時代の写本として貴重な作品である。</p> <p>21,600,000円</p>	
<p>4</p>	<p>○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品 質 ○寸 法 等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p><漆工> 木製転法輪筒（もくせいてんぽうりんつつ） 一合 平安～鎌倉時代（12世紀） 木製 墨画 表面に淡彩 総高 23.6 cm 蓋径 5.8 cm 身底径 5.3 cm</p> <p>転法輪法という修法に使われる木製の円筒。転法輪法は怨敵退散や国家安穩、安産などを祈願する密教修法で、空海所伝の東密の秘法として伝えられてきた。本品は筒身に十六大護を墨画し、蓋表と底裏には輪宝を浮彫し、10字の梵字を墨書しており、経軌の記すところと一致している。なお、先行研究によれば、本品は高山寺に伝来した2合のうちの1つと考えられ、勸修寺の興然周辺で作られたものを明恵（1173～1232）が伝領して高山寺に伝わったとされる。当時の秘法に関わる極めて貴重な遺品。</p> <p>64,800,000円</p>	